

2018 年度 小委員会活動成果報告

(2019 年 2 月 25 日作成)

小委員会名	環境行動研究小委員会	主 査 名：橋 弘志 就任年月：2016 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会 (計画基礎運営委員会)	委員長名：広田 直行 主 査 名：山田 哲弥
設 置 期 間	2016 年 4 月 ～ 2020 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境行動研究的視点から、実際に体験される環境・場所の質を分析・評価するための理論構築を行うとともに、人と環境との豊かな関係を紡ぎ出す環境・場所の創出・維持を目指す。 ・環境行動研究に関する研究会の開催 ・居場所づくり・利用・維持・管理の方法論に関する検討 ・北欧の環境・デザインから環境行動研究の理念と実践とを融合する知見の導出 ・文献・情報源の整理とデータベース作成 	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無	
	橋弘志 (実践女子大学)、岩佐明彦 (法政大学)、水村容子 (東洋大学)、林田大作 (大阪工業大学)、諫川輝之 (東京都市大学)、伊藤俊介 (東京電機大学)、大野隆造 (東京工業大学)、垣野義典 (東京理科大学)、小林健治 (摂南大学)、鈴木毅 (近畿大学)、田中康裕 (ハネウェル居場所ハウス)、西田徹 (武庫川女子大学)、前田薫子 (東京大学)、松原茂樹 (大阪大学)、山田あすか (東京電機大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>「まちの居場所」研究 WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な「まちの居場所」における人間と環境の関係を捉える方法と理論の錬成 ・居場所環境の計画・デザイン・利用・維持・管理のための実践的な知見の抽出 <p>北欧における環境デザイン WG</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北欧の環境デザインを対象に、環境と社会システムを包括的に捉え、環境行動研究の実践的・理念的知見を抽出するとともに、その成果を情報発信する 	
2018 年度予算	135,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス： http://news-sv.aij.or.jp/keikakusub/s17/

項 目	自己評価
委員会開催数	小委員会 4 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	無し
講習会	無し
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	公開研究会「人の自立をささえる北欧の多様な居住環境デザイン ～社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつう」の生活 その 3」 (2018 年 11 月 23 日開催)
大会研究集会	無し
対外的意見表明・パブリックコメント等	無し
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 建築学会大会 (東北) に合わせて大船渡「居場所ハウス」視察を行い、現在の震災復興状況を確認するとともに、高台移転した地域における新しい「居場所」の役割・意義について議論を行った。 2. 法政大学大学院まちづくり都市政策セミナー「縮退時代の都市空間」におけるワークショップ「地域の関係を紡ぐオープンスペースの開き方」に企画協力として関わり、「居場所」を巡る他分野の研究者との議論を行った。 3. 北欧の環境デザイン WG が中心となって、公開研究会「人の自立をささえる北欧の多様な居住環境デザイン ～社会システムと場所の質からよみとく北欧の「ふつう」の生活 その 3」を開催し、研究成果の情報発信を行い、日本の現状に対する問題提起を行った。 4. 「まちの居場所」研究 WG が中心となり、引き続き「まちの居場所をめぐる論考」の書籍の出版に向けて最終的な編集活動に取り組んだ。
委員会活動の問題点 ・課題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今年は小委員会活動の活性化に向けてさまざまな活動を心がけたが、次年度では、環境行動研究の理念的・実践的な理論構築に向けて、なおいっそう議論の時間を十分にとれるよう、活発な活動を進めていく。 2. 「まちの居場所」研究 WG で進めている「まちの居場所をめぐる論考」を出版し、合わせて公開研究会を開催する。 3. 各 WG の成果をまとめ、情報発信に努める。